

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170504054), 法人名 (社会福祉法人 ノテ福祉会), 事業所名 (グループホーム「ごきげん」清田), 所在地 (札幌市清田区清田1条4丁目3-16), 自己評価作成日 (平成29年 3月 15日), 評価結果市町村受理日 (平成29年4月14日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の理念にも掲げている「あなたらしさ」を大切に、ご入居者皆様の尊厳の保持に努めています。過介助にならない自立支援を継続して心掛け、職員とご入居者様と一緒に、時に時間のかかる事も「自分でできた」という達成感を味わっていただき、元気に過ごしていただいています。職員は日々ケアの質向上の為、様々な研修会に参加しております。他、地域密着を意識し近隣の小学校との交流、商店や公園、区の催しなどにも積極的に参加させていただいています。ご家族様ともご入居者様の生活の為、密に連絡をとらせていただきご意見をもらっています。当事業所は、花壇や畑があり、ご入居者様と一緒に作業をしています。毎年恒例のパーベキューは恒例行事として楽しんでもらい、秋には収穫祭を行います。小・中学校からは紙芝居を見せてもらったり、職場実習で認知症の方々の勉強会を開催、運営推進会議等では警察の方や消防の方の講話の時間など、家族様にも参加いただき企画してきました。地域包括ケアを意識し、より多くご家族様や地域の方々とのおふれあい、社会資源とのつながりを継続して行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_02_2_kani=true&JigvoSyvoCd=0170504054-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年3月23日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者は人間として自由に表現できる社会を実現したいと数多くの福祉事業を展開し、当事業所は開設して12年目を迎えようとしている。地域密着型事業所とサービス付き高齢者住宅が併設している。開設時より近くの小学校からは深い理解と支援があり、リングブルを交換しての車椅子の贈呈や、年に数回学芸会や来訪等で児童と密な交流があり、登下校時は利用者と児童は手を振り合っている。職員は、利用者の自主的な気持ちや動きに沿い、できない部分を補うなど自立に向けた支援に取り組んでいる。法人は、年20回程の研修を企画するなど、職員の資質向上と就業環境の整備に努めている。職員は、理念の一節である敬愛と尊厳をもって、利用者が安心して気持ちよく過ごせる居場所になるよう寄り添う支援に努めている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and evaluations.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の事業所であることを意識し、事業所理念を掲げ実践に繋げています。	法人理念を共有し、さらに「絆～安心できる暮らしを目指して」をコンセプトに3項目からなる事業所理念を策定し、日々のケアで実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣小学校との交流、地域の行事にも積極的に参加している。商店や喫茶店でも日常的に交流し馴染めている。	散歩がてら、買い物やコーヒータイムは近所の店を利用している。隣接の小学校とは定期的に交流があり、さらに個別に小学生が来訪している。町内会の清掃やラベンダーの手入れは利用者と一緒に参加しており、地域の中に溶け込んだ暮らしを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校への認知症の勉強会、中学校からの職場体験、地域での介護相談会を継続しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員様からの感想や助言の他、ご家族からの要望や意見も必ず伺い、それを職員会議等で伝達しサービスに繋げる様子掛けている。	系列の地域密着型事業所と合同で年6回開催され、活動報告後に事故報告や家族・地域の要望などに質疑応答が行われ、出された意見は運営に反映できるように努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の入居状況報告、他事故報告の際に電話及び直接伺ってご指導いただくなど連携を図っている。	行政への提出物は管理者が担当窓口を持参し、助言や意見を得ている。相談や空き情報等は電話・FAXを利用している。行政主催の会議や研修会への参加、利用者の状態把握で来訪する担当者と情報交換があり、連携を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修も継続して参加、身体拘束の無いケアを日々実践している。	身体拘束や虐待をしないケアの実践に努めている。マニュアルを整備し、法人研修や外部研修参加後の伝達研修を行い、具体的行為とその弊害について職員に周知徹底を図っている。家族の同意を得てユニット入口、内玄関は施錠しているが、職員の支援の下、利用者は自由に出入りできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修に参加する他、事業所内会議の場で勉強会を継続、特に新入社員が虐待とは何かを、しっかり見極められるよう学べる機会をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、運営推進会議にて地域包括支援センターの方からの講話なども勉強として学べる機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	最初の見学にお越しいただいた時、地域密着型についてグループホームについて十分な説明を行えるよう学ぶ。契約・解約時も理解していただける説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族からの要望や意見を必ず伺う。法人も年に数回の満足度アンケート調査を継続、その結果を職員全体で周知し業務に役立てている。	家族からの要望は、面会時や電話、運営推進会議、焼肉会等の行事で来訪の折に傾聴している。事業所便りの発行要望があり、法人に相談している。法人企画の満足度アンケートの実施でも意見が出され、改善に向けて協議している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月の会議や人事考課の際の個別面談他、日頃より職員から意見やアドバイスをもらっている。	管理者やリーダーは都度、職員の意見や要望を受け止めている。判断が困難な場合は、法人に相談して改善に繋げている。職員は行事などの業務を分担し、持てる力を発揮している。事業所専用車両の配車や印刷機購入を申請している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課にて職員全員の評価を行う為に、日頃から全職員と些細な事も話をしたり面談の時間を持つ。他、休日や勤務の希望をとることを継続。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格者の採用を積極的に行っており、法人内外の研修を受講、エルダー制度にて先輩・後輩共に学んでいける体制をとり進捗状況を管理者は都度確認をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者会にて企画した研修会、他ケア連絡会での研修会にも積極的に参加するように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメントや初期プラン作成へ反映させるようご家族やご本人への面談を慎重に行っている。少しでも話しやすく関わりやすく感じてもらえる様心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心配事や不安・要望を事前に伺っておき、気軽に相談していただけるよう、今後の関係づくりにも反映するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記にて予め伺っておいた情報をもとに、先ずなにが必要なのか、初期の段階で予測できる今後をアセスメントし、それは都度フロアにて周知しておくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を意識し、本人の出来ることを見極めお手伝いしてもらったり、生活リハビリの一環として活動してもらおう。散歩や外出も誘ったり誘われたりといった家庭の環境づくりを目指している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子の報告も含め出来るだけご家族とは数多く関わりをもてるよう努め、行事や会議だけでなく、積極的に面会に来ていただきこちらからも相談させてもらえる関係づくりを大切に継続している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人様の面会やお電話、行事への参加の他、馴染みのある理美容院や喫茶店に出かけたり、お住まいだったご自宅への外出も継続中。	利用者から馴染みの場所への外出要望があれば、家族の協力も得ながら可能な範囲で同行支援している。どんど焼きに利用者と神社に訪れるなど、習わしを大事にしている。家族や友人の来訪時には歓待するなど、これまでの繋がりを尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション他、生活リハビリも入居者同士で一緒に行っていくうちに、ともに支え合って過ごされるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の方の定期的な面会を行いながら、ご家族も「近くまで来たから」と寄っていただいたりする関係が築かれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向の把握が困難な入居者は多いが、ご家族から得た本人の過去の情報等をもとにケアプラン等に反映させている。	利用者が意見や要望を表わすことは少ないが、生活歴や家族からの話を基に根底にある思いの汲み取りに努めている。遠方の家族に相談し、利用者に孫の入学式の写真付き葉書が届けられ、利用者は祝杯をあげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期に入居前アセスメントで情報を得てはいるが、入居後も都度ご本人やご家族等に伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃のケアを中心に定期的にモニタリングを実施、会議にて職員全員で情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニット毎の会議と事業所全体の会議を毎月開催しているが、都度担当者の声掛けにてカンファレンスを行なえる様にしている。	ケアプランは3ヵ月、1年の期間で見直しを行っているが、特変事は都度支援内容を新たにしている。関わりから利用者や家族の要望を把握し、会議等で利用者にとって適切なプランになるよう全職員で協議している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録の他、介護記録欄の「気づき」欄にて、職員各々が都度感じたことや報告を記載、会議や計画作成時に反映するよう活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に変化があって当然の高齢者をケアするという意識の元、見直しなどあればすぐにカンファレンスを行い新しいケアを模索、時にご家族に相談させていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃の買い物や散歩も、地域の環境やお店、公園に出かける機会を持っている。隣接する小学校との交流も何年も継続中。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からのかかりつけ医がいる方は、そちらへの受診を継続していただき職員が受診同行している。かかりつけ医に現在の状況を報告し適切な医療を受けてもらえる様支援している。	以前からのかかりつけ医への受診支援を行い、さらに家族の協力を得ながら他科の受診にも同行している。2か所の往診医による週2回の診療、訪問看護師による週2回の健康チェックがあり、情報は関係者と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	カンファレンスを訪問看護の方に同席してもらい、う事もあり、とても協力を得ている。入居者に何か変化があってもすぐに連携が取れる体制が継続されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃からかかりつけ医の他、協力医療機関などには定期的に挨拶に伺い、関係を継続している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療・訪問看護・家族・職員にて入居者に接し看取りケアも実施してきた。医師も含めたカンファレンスや、家族も含めた看取りに関する勉強会も行い全員で支援を行う体制を作っている。	契約時に、利用者や家族に重度化や終末期に於ける対応を書類で説明し同意を得ている。家族や主治医と協議の上、看取りケアを行っており、職員は知識や技術の向上に努め尊厳ある支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内外にての研修会で、救命救急やAED、応急処置の勉強、他医療先への緊急連絡の練習など行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同一敷地内の施設との連携をし、防災訓練時などは互いに協力を依頼しとりおこなっている。昨年度からは災害の緊急時対応、備蓄に関する研修会も参加し勉強に取り組んでいる。	年2回、消防署の指導を得て夜間想定避難訓練を計画し、1回目を終えている。周辺住民に訓練への参加要請を行っているが、参加には至っていない。災害時備蓄品は、法人と連携し順次整備している。	事業所近くには川があることから、自然災害への対策と実践的訓練、地域との連携強化、法人や系列事業所との協力体制の確認等を考慮しているので期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人名がわかるような掲示物や職員間の申し送りなども個人情報意識して行っている。	介護記録には個人名を明記せず部屋番号にするなど、個人情報関連の取り扱い適切に行われている。言葉遣いなど、利用者一人ひとりの尊厳を重視したケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「尊厳重視」を大切に、先ずご本人に自己決定をしてもらえる様なケア及び関わり方を意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者各々の生活リズムや習慣を尊重している。毎日同じ習慣の方も、日々過ごし方が違う方も、それぞれの生活習慣を尊重する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や整容、女性であればお化粧品も行ってもらい、理美容時その人らしさを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けを始め、各々の好みや興味を引き出し食べながら楽しめる環境、行事食の時は買物にも行ってもらい献立を決める時から始めてもらい、昔の話も楽しめる環境をつくっている。	献立と食材は外注だが、手作りメニューの日は行事食などに利用者の要望も取り入れている。畑で採れた野菜は、毎日の食事や収穫祭のバーベキューで活用している。ウッドデッキでのティータイム、外食、出張寿司職人による握り寿司などで食事に変化をつけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理(排泄・皮膚状態・活性化)の源と考え支援、ただ厳しく管理するのではなく、好みや量、時に形状等入居者個々に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシング・スポンジ・口腔シートと個々の状態に合わせた方法と、出来る所は行ってもらう自立支援を考慮し毎食後の口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方に必要な時間帯のみ使用するよう心掛けている。排泄行為自体もトイレへ向かう時から下衣の上げ下げ、後始末から戻る時まで必要な所を手伝い、過介助にならないよう心掛けている。	脱おむつを念頭に一人ひとりの排泄状況をチェックし、見守り、声かけ、誘導を行い、トイレでの自立排泄に繋げている。布下着と最小限の衛生用品の使用にとどめ、失敗が無くなるなど効果が現れた利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、軽い運動、食事の摂り方や水分量、排泄時の姿勢等、研修で職員全体が学んできたことを活用し取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限りの配慮をし提供する。時間帯は決まってしまうが、時には夜間に希望があった時など柔軟に対応できるよう努めている。	毎日入浴出来る態勢だが、週2回を基本としている。同性介助や夜間入浴の意向があれば対応している。利用者は音楽をかけたり、入浴剤入りのお風呂にゆったりと入っている。時には、職員を誘い一緒に入浴している様子を家族は嬉しく思っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の巡回の時間や日中の休息の時間も、ケアプランに反映させ個々に合わせゆっくり休んでもらえる様配慮、時に足浴や手浴にて安眠を得られる方への対応等工夫を試みている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表にて入居者各々の薬の内容を把握、症状等に変化があった場合には訪問看護や主治医に報告する、誤薬事故の無い様服薬の際には何重にも確認作業を行うことを継続している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で出来る範囲でのお手伝いや、軽なお仕事(役割)をもってもらい生活の習慣にさせていただく。それはプランに反映させる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の商店や喫茶店、公園や小学校に散歩など支援、時にご家族と計画し外出に同伴して頂いたり地域の催しにも参加を継続、施設内の外出行事も委員を決めて毎月立案している。	買い物やコーヒータム、畑や花壇の手入れ、付近の散歩は日常的に行われている。行楽地での鯉のぼりや花壇の観賞、雪祭り見物など、多様な外出行事には非番の職員も出勤して支援している。家族による外出支援もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃は事業所でお預かりしているが、外出や行事に出かける際は各々に預けて使ってもらい、会計の際には職員が付き添い支払いも楽しみの一環として尊重する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書で近況をご自分でお知らせできる支援を始めてみて、現在も継続されている。電話の希望があればフロアにてご友人やご家族にしてもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけや行事を行い気持ちよく過ごして頂ける様心掛ける。清潔で気持ち良く、一緒に暮らしているという雰囲気を持てるよう配慮、食堂の座席位置も業務の都合で決めるのではなく楽しく食事や生活が出来るよう工夫。掃除や換気も入居者にも行ってもらっている。	玄関には、利用者の作品や家族からの飾り物が置かれている。採光が十分な居間から続くベランダは、ティータイムや小学生とのふれ合いの場となっている。季節感を大事にし、四季折々の飾り付けを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方々同士がコミュニケーションをとれたり、職員も交えレクや運動を行なえたり、のんびりテレビを見たり音楽を聴けたりと、リラックスできる空間づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーに配慮し、その人らしい過ごし方が出来る様、馴染みの家具や必要なものを揃えてもらい自分の空間として過ごして頂いている。	居室には、洗面台、ロッカーが備えられている。利用者は床に布団を敷いて休んだり、仏壇や写真、ソファ、手作り作品など、馴染みの物や大切にしている物を持ち込んでおり、職員は動線に配慮し安全に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの案内表示、居室内はつかまったり歩くのに便利な家具の配置、車いすでも移動に差し支えない環境整備に配慮している。		